卒業論文

タイトル

08-222021 長谷川 慧

指導教員 森畑明昌 准教授

2024年1月

東京大学教養学部学際科学科総合情報学コース

Copyright © 2024, Hiraku Hasegawa.

概要

ここに概要を書く.

目次

第1章	はじめに	1
1.1	背景	1
1.2	研究の目的	1
1.3	本論文の構成	1
1.4		1
第2章	先行研究	2
2.1	Unno B	2
2.2	Relasionak verifiation	2
第3章	方法	3
第4章	実験	4
4.1	結果	4
4.2	考察	4
第5章	おわりに	5
参考文献		6
付録 A		7

第1章

はじめに

1.1 背景

検証のこと関係的検証とは・普通の検証との共通点と相違点海野ら 必要最小限のことを書く

1.2 研究の目的

pcsat の調査不足 benchmark 少ないしかも primitive non-trivial な例はない (e.g. arrayInsert) pcsat の複雑性によってスケーラビリティに想像つかない

実際問題使えるの?

使えないならヒントが必要なのでは?・benchmark の追試 solver の update が原因なんじゃないか (想像)・自作問題 (3つ) ヒント・array read-only

1.3 本論文の構成

1.4

第2章

先行研究

- 2.1 Unno **5**
- 2.2 Relasionak verifiation

第3章

方法

第4章

実験

- 4.1 結果
- 4.2 考察

第5章

おわりに

参考文献

[1]

付録 A